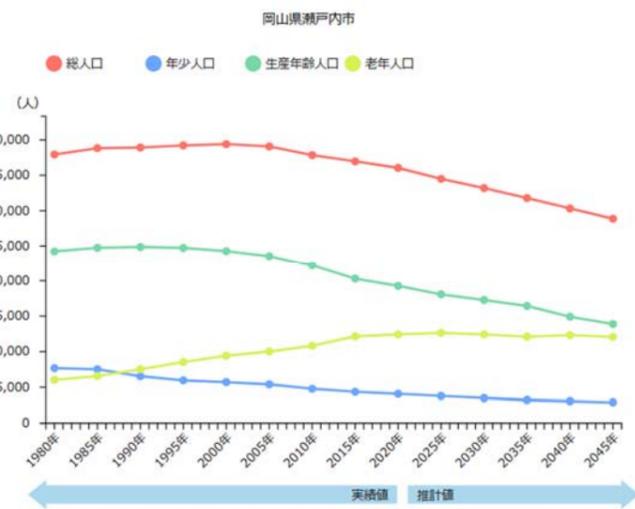


令和5年度 RESAS 地域経済分析システムを活用した 瀬戸内市商工会管内経済動向分析報告書（要約版）

1. 地域の人口動態

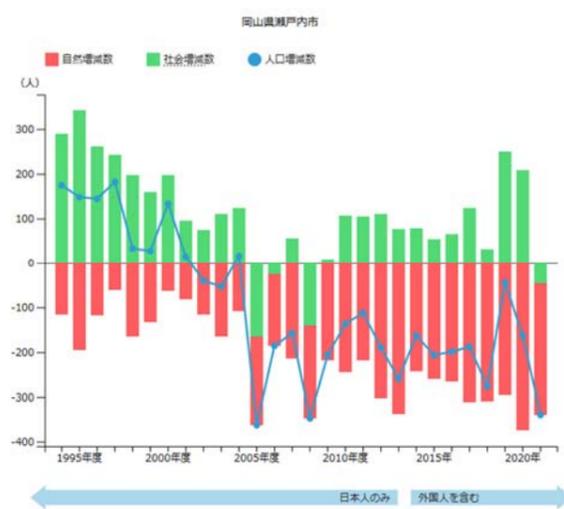
人口は緩やかに減少する見込みです。2010年以降は一貫して社会増の状況であり、過去も同様の傾向が強いことから、転入が多い特徴があります。特に30歳以降は転入傾向が顕著であり、生活する場所としての人気が高いことが推察されます。ただし、空き家の増加が顕著な状況となっており、2,000件に迫る勢いです。その利活用が課題となっています。

■人口推移・推計



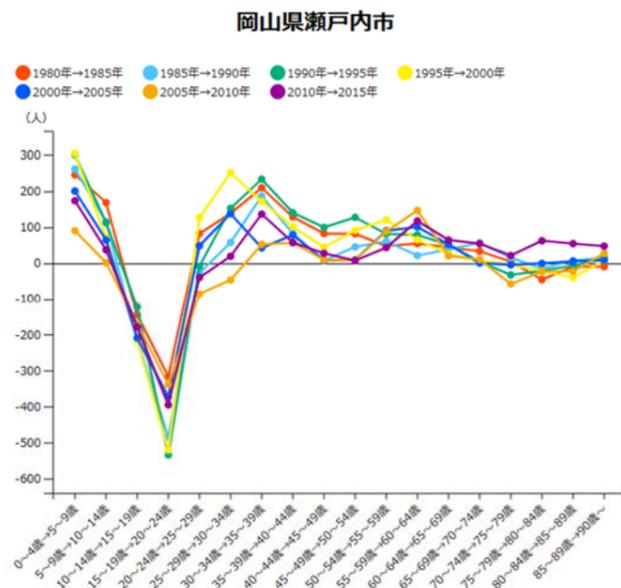
左図【出典】総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」

■人口動態・増減



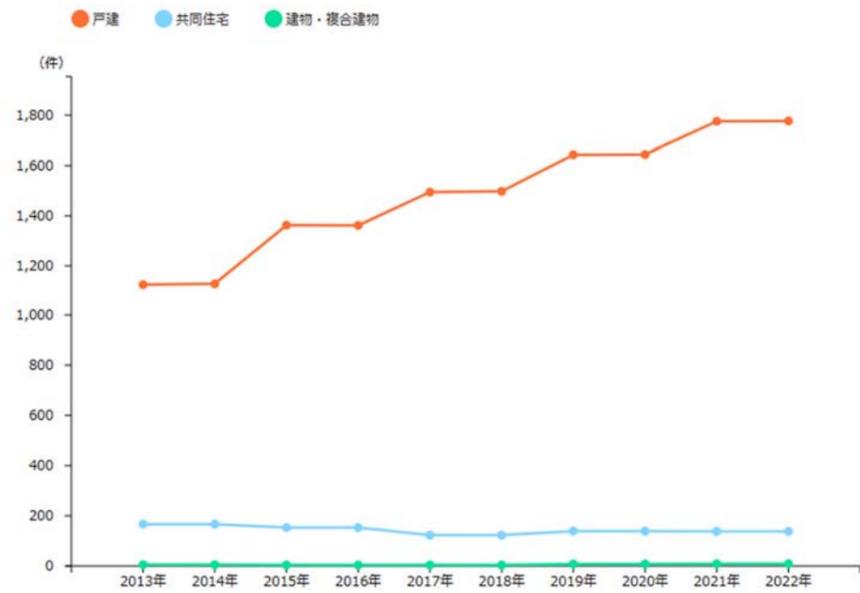
右図【出典】都道府県：厚生労働省「人口動態調査」、総務省「住民基本台帳人口移動報告年報」

■年代別人口増減



【出典】総務省「国勢調査」、厚生労働省「都道府県別生命表」に基づきまち・ひと・しごと創生本部作成

■空き家数の推移



【出典】株式会社ゼンリン「建物統計データ」

空き家の増加対策として、空き家を有効活用して新たに事業所を開設する方に、改修費等の一部を補助する制度（瀬戸内市空き家活用事業所開設支援補助金）を創出しています。

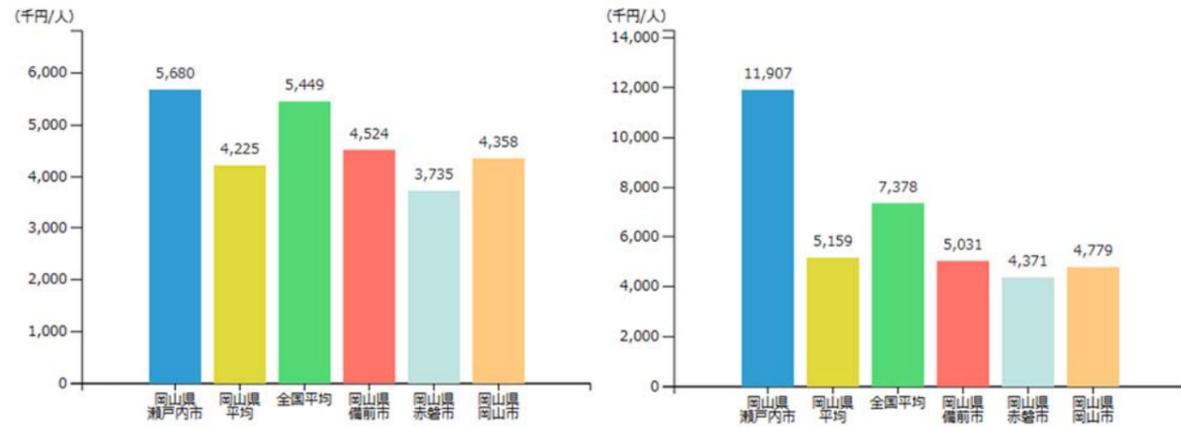
2. 地域の経済動向

従業員数は、製造業が最も多く、次いで、サービス業（その他に分類されないもの）、卸売業・小売業となっています。労働生産性では特に製造業に存在感があります。

■従業員数



■労働生産性（国・県平均との比較）



【出典】総務省「経済センサス基礎調査」再編加工、総務省・経済産業省「経済センサス活動調査」再編加工

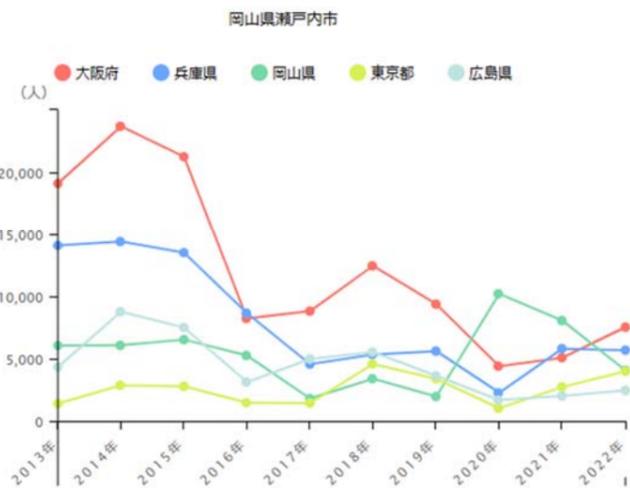
3. 地域の人流動向

年間を通じて大きな人口移動はなく、安定した商圏人口を有しています。宿泊客数はコロナ禍前から大きく減少しています。



【出典】株式会社NTTドコモ・株式会社ドコモ・インサイトマーケティング「モバイル空間統計®」総務省「平成27年国勢調査」

居住都道府県別の延べ宿泊者数（日本人）の推移

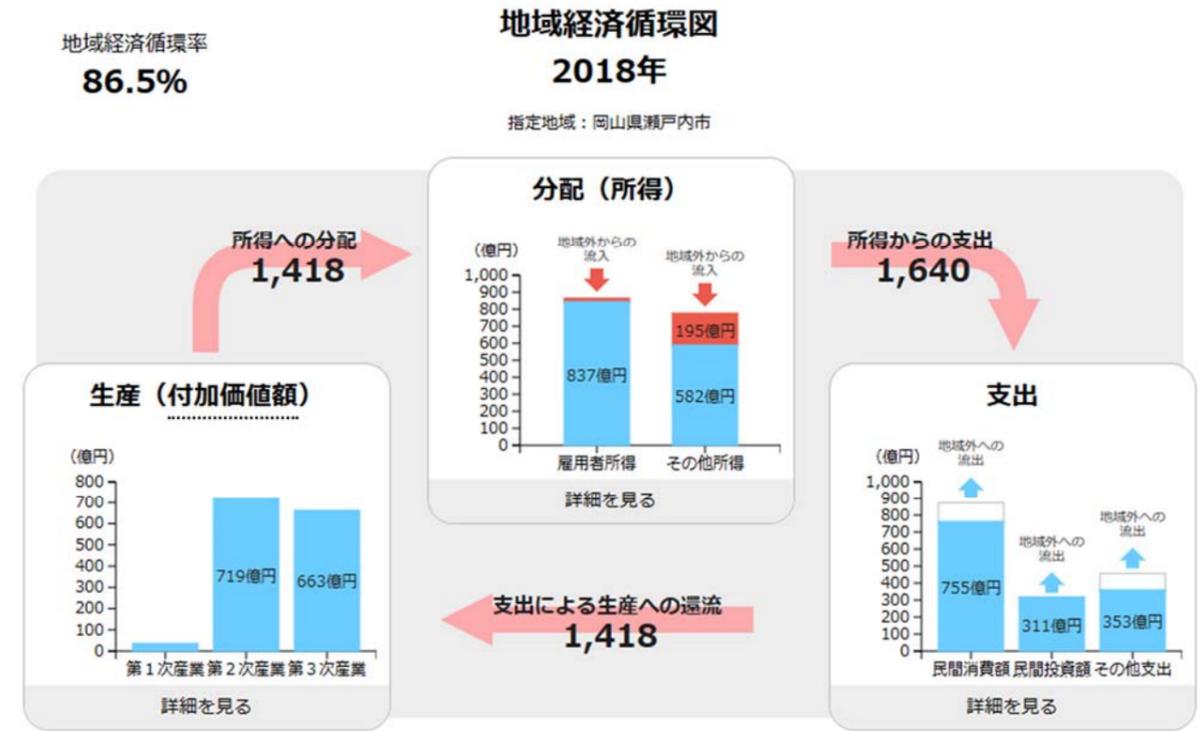


【出典】観光予報プラットフォーム推進協議会「観光予報プラットフォーム」

4. 瀬戸内市商工会管内の経済的特徴

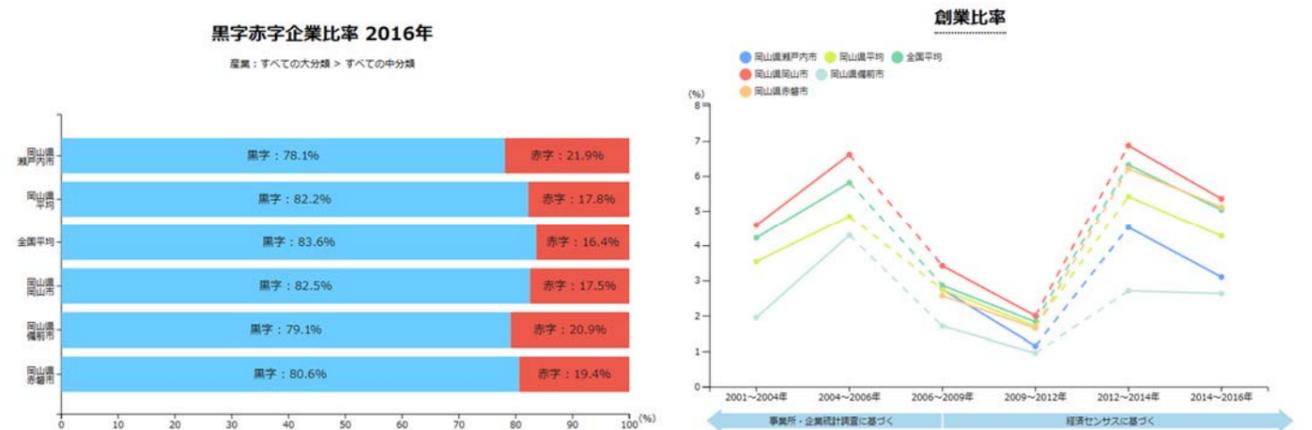
本市は中長期的な人口減少が予測されるものの、その減少幅は限定的であり、人口の社会増の状況にある総じて安定した人口を有しています。このことから生活しやすく、住みやすい街であるといえます。

地域経済循環率（地域経済の自立度：生産（付加価値額）÷分配）は86.5%です。このことは、地域内の所得は地域内で得られる生産（付加価値額）だけでは賄うことができず、地域外からの流入に依存していることを意味しています。支出面（消費・投資）では、分配（所得）の雇用者所得（864億円）に対して、民間消費額のうち地域内での支出は755億円となっています。支出について地域外への流出が見られています。



【出典】環境省「地域産業連関表」、「地域経済計算」（株式会社価値総合研究所（日本政策投資銀行グループ）受託作成）

瀬戸内市企業の経営状況を概観すると、黒字企業の割合が全国平均・岡山県平均を下回っており、創業比率も同様です。地域循環率の状況も踏まえると、地域密着型の中小・小規模企業の発展・育成に向けた取り組みの充実の必要性が浮き彫りになっています。



左図【出典】総務省・経済産業省「経済センサス活動調査」再編加工

右図【出典】総務省「事業所・企業統計調査」、総務省「経済センサス基礎調査」、総務省・経済産業省「経済センサス活動調査」